

全国農業協同組合連合会栃木県本部とJAによる梨の輸出

JAグループ栃木(栃木県)

取組の概要

- 東日本大震災後、停止していた栃木県のブランド梨「にっこり」の輸出を平成27(2015)年から全国農業協同組合連合会栃木県本部(全農とちぎ)と県内7JAが連携して再開。輸出実績は震災前の約3倍に拡大。
- 県内7JAが連携することで、海外のニーズに合わせたロットを確保。全農とちぎが輸出手続きにかかる事務作業や出荷前検品を請け負うことで各JAの負担を軽減。

事業化(プロジェクト化)成功のポイント

1 海外バイヤー向けの国内商談会での出品をきっかけに輸出再開

栃木県のブランド梨「にっこり」は、東日本大震災の前から香港を中心に輸出されていたが、震災をきっかけとした各国の輸入制限により、輸出が停止。

輸入制限が解除された平成26(2014)年に、国内で開催されたジェトロ主催のバイヤー向けマッチング商談会に(一社)とちぎ農産物マーケティング協会(マーケティング協会)等が参加し、商談がスタート。全農とちぎが県内のJAに呼びかけ、梨の光センサー選果機を保有する7JAが連携した輸出を平成27(2015)年に再開。平成27(2015)年には、県主催のシンガポールでのトップセールス、平成28(2016)年にJAグループ主催のマレーシアでのトップセールスを開催。

2 全農とちぎと7JAが連携し、輸出手続を効率化

東南アジアなどでは大玉の梨が好まれる一方で、1つのJAエリアでの大玉「にっこり」の供給量は限られることから、全農とちぎが7JAと連携して輸出向け大玉のロットを確保。このことが輸出の成功のキーポイントとなっている。全農とちぎが各JAで集荷した梨を集約することで、船使用冷蔵コンテナでの出荷注文に対応できるようになった。

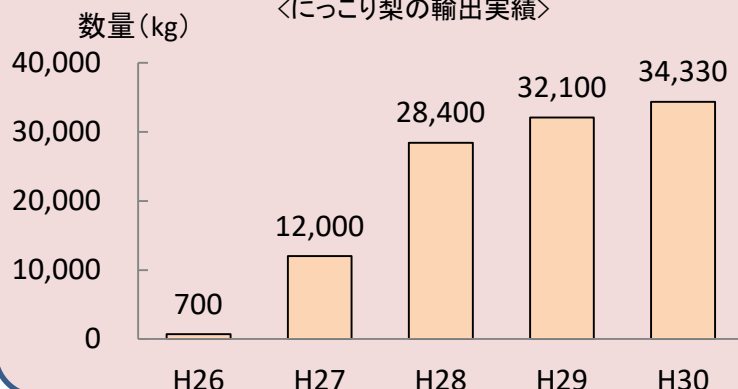
「にっこり」の出荷期間は10月末から約3週間に集中しているが、その期間中に輸出に必要な証明書発行や検品作業、国別に必要なラベルの添付作業などの手続きを全農とちぎが一括して請け負うことでJAの負担を軽減。また7JAで選果基準や玉ぞろえなどの規格を平準化したことで品質が安定し、ブランド力確保につながっている。

3 オール栃木体制での輸出事業の展開

現在はシンガポール・マレーシア・フィリピン・インドネシア・タイ・香港等に輸出。全農とちぎでは、県やマーケティング協会とも連携し、出荷・販売時期にスタッフを現地に派遣して流通上の課題の把握、マーケティング調査、バイヤーとの意見交換等を実施し、結果はJA、生産者にもフィードバック。例えば湿気に強い資材の開発などの課題に対して、全農とちぎを中心とするオール栃木体制で改善することでより良い輸出体制の構築を目指している。

取組の実績

〈にっこり梨の輸出実績〉



平成27(2015)年の輸出再開以降、全農とちぎで取り扱う「にっこり」の輸出量は年々増加。東日本大震災前の平成22(2010)年(約11,000kg)の約3倍に拡大。